



日本発の高齢化社会の切り札

「コエンザイムQ」

協会発足、普及と
研究の推進役に



山本順寛理事長

重要な抗酸化物質として近年注目を集めている「コエンザイムQ」の知識普及と研究促進を目的として、『日本コエンザイムQ協会』（山本順寛理事長、東京都千代田区、☎03・3230・4433）が11月1日発足した。

コエンザイムQは心筋症などの心不全・がん・糖尿病など生活習慣病に有効とされ、老化防止や美容効果の高い健康食品として有望視されている。サプリメントとして、米国での市場規模は二五〇億円以上といわれる。日本では昨年3月の食薬区分改正により医薬品から食品へと分類されたばかり。協会は今後、賛助会員を募り、一般への情報提供や未解明部分の研究を推

し進める。コエンザイムQは、生命活動に必要な細胞のエネルギー生産に不可欠な物質として一九五七年に発見された。生体の老化やがん・動脈硬化・糖尿病・パーキンソン病などの原因とされる活性酸素・フリーラジカルによる生体傷害を防ぐ第一線の抗酸化物質としても重要であることが明らかになってきた。私たちは自らコエンザイムQを作り出しているが、コエンザイムQの細胞内濃度は、多くの臓器で二〇代がピークとなり、加齢とともに減少していく。そこでコエンザイムQをサプリメントなどで補うことが重要となる。そもそも日本におけるコエンザイムQの利用は世界に先駆けるもの。一九七四年に心不全改善薬として認可されて以来、薬品としてはその絶大な効能を知らしめてきた。今後は現代医療の及ばない、体力・精神力の根源を補う食品として、さまざまに活用されていくものと大きな期待が寄せられている。